

# 双方の間に立つて

## 調停團折衝に努む

### 労資兩者の會見までには 進行しなかつた

争議解決のため進出した調停存在証は二十六日午後一時公  
開通り津山三氏に送附されし調停の方法を協議の上  
◇**両手に別れ** 自動車に分類して解業組合、荷運業組  
合、下作業部、吉田製粉所、炭本組、三井三峯、日本石油及び合同  
労働組合を照して調停に立つた趣旨を述べて同夜小樽俱樂部に  
懇談を求めた所各組合では何れもその旨を多くして賛成すること  
となり午後六時より労働者側は代表鈴木重三、近藤繁作、武内清三  
氏出席、調停者側は井大南、津山、竹山、夏川、前田、秋山、櫻  
田、海老森の十一氏出席、津山氏は調停者の意見を聴取し鈴木重三側は  
午後七時より左の語氏出席  
(曲下作業部佐藤勝二、井伊藤保太、三守貞誠、荷運業組合)  
五十嵐新井幸二、解業組合谷口組長代理岡田興之助、西尾佐十  
郎、木谷貞太郎、荷運業側、前川深谷清の語氏  
にて調停者と労働者側との意見が引いたので調停者側は二つに  
分れて一方労働者側の意見を聴取すると共に一方  
◇**事業者側と** 別室に意見意見を聴取し同夜十時頃ま  
で調停につき折衝を進めたが同夜中には労資兩者の意見がなす迄  
には至らなかつたが調停に對しては労働者側も事業者側も非常  
なる信頼を以て協議を進めてゐる

## 亂闘市街の關係者 判れはまた檢舉

### 今後もぞくぞく 警官と小競合

二十三日夜の大亂闘を檢挙の十九  
名中十二名は送検され七名は放逐  
されたがこの取調べによつて二十  
三日夜の亂闘關係者判明せしむるも  
は檢挙する方針に伏したもので、  
姫く二十五日午後六時を檢察し取  
調べを行つたが其筋は今後續々と  
關係者を檢挙する方針で二十六日  
午後には札幌より調停係次郎命  
木野赤部部長檢察は調停のため來  
職したがこれで檢察のお願立が出  
來たらしい  
二十六日午後八時から臨調町二十  
一郡大隊警長、調停の小樽魚菜市  
場警備隊、臨時調停會の入口  
で七時五十分頃労働者側民黨小樽支  
部、市街に大西數一氏がおりから  
調停警官に身體檢査を行はれた處  
腹中へ大封筒に入れた宣傳ビラを  
所持してゐるを發見され矢面にそ  
れを奪ひ取らんとする警官との間  
に小競合を演じその場から檢束さ  
れた

## 應援巡查への 支給金

### 莫迦に出來 ない

小樽警が道廳に應援警官を申請し  
調停また事態を再考して市  
街警備隊に第一回は大樽署へ十五  
名、第二回は二十三日の調停に出席  
せたが更に二十三日夜の亂闘以來  
更に百餘名に増強せしめられ  
の任に當つてゐるが巡查二名は一  
月五圓を支給せざるべからず百名  
とするも五百圓を要する事となる  
ので之に往復の旅費を加ふる時は  
既に推定以來十日となりたる今日  
五千圓の支出を見るに至り旅費の  
關係についても其筋では相當考慮  
し得ず、尙早く時は道警事務會の開  
會が必要となるべく地方警よりの  
支出は道警局長の自費となるこの  
點を充分に考へて一日も早く調停  
を充分に考へて一日も早く調停  
なる解決を望むの議も起つてゐる